

ブランド都市・桐生の構築と「MADE IN 桐生」製品の ブランド化事業への支援について（改訂継続）

令和2年の春以降、新型コロナウイルス感染症が拡大し世界的なマスク不足に陥る中、1300年の歴史を誇る集積型の総合繊維産地・桐生では多くの繊維関連事業者がオリジナル布製マスクを作り、この危機に対応しました。

桐生商工会議所では、「コロナのピンチをチャンスにプロジェクト」の一環として、これらをホームページに集約、発信を行い、「made in 桐生のマスク」は新聞・テレビ等のメディアにも多数取り上げられるなど注目を集め、国の補助事業「JAPANブランド」の採択を受け、越境ECやクラウドファンディングの活用など新しい商流による販路開拓支援事業を展開してきたところです。

同時に桐生の多様な地域資源を一元集約したウェブサイト「桐生クラフトストーリー」を構築し、ブランド都市・桐生の発信を行っております。

これからも「桐生クラフトストーリー」の拡充により、多様なクラフトマンシップが育まれる桐生の魅力を全国に伝え、またブランド認定制度の創設など、関係機関とも連携しながら繊維関連をはじめとした桐生の事業者・製品の更なる付加価値向上、産地PRを行っていきます。

令和4年度は新たに桐生市内において、ものづくりの生産工程を一般公開できる工場・事業所を集めてプロジェクトを構成し、「オープンファクトリーのまち」として桐生のものづくり及びものづくりのまち桐生を地域内外に発信する取り組みを行っていく計画です。

桐生マスクのブランド化からオープンファクトリーへの取り組みなど一連の事業を通して、「モノ」と「まち」の両面から「ブランド都市・桐生」の実現を目指し、地域の事業者と経済の持続的な発展につなげていきたいと思っておりますので、引き続きこの事業の推進に、より一層のご支援をいただきますよう要望致します。

桐生市からの回答

1300年以上の歴史を誇り、今もなお繊維関連の複合的な技術が、高いレベルで集積している本市は、国内の繊維不況が常態化する中においても、高度な産地機能を維持している数少ない総合繊維産地として、業界内では高い評価を受けております。市内には、厳しい経済環境の中でも生き残る技術力や強みを有し、それを活かしたオリジナル商品づくり等に取り組んでいる企業が数多く存在し、中にはブランドイメージを持つ付加価値の高い「made in 桐生」製品として、国内外で高く評価されているものもあります。

一方、繊維を中心とする様々な技術集積の中で、多様な商品群が存在するが故に、業界の枠を超えた地域一体となったPR活動等を進めにくかった面もあり、厳しい経済環境に置かれた地域企業に波及効果をもたらす「地域ブランドづくり」は以前から課題として指摘されてまいりました。また、オリジナル商品展開等を行う地域企業にとって販路開拓は共通の課題でもあり、地域ブランドの構築を通じた販路拡大支援は強く求められていると

ころであります。

こうした中、市では付加価値の高い製品開発や販路開拓等を行う市内企業の支援を積極的に行うとともに、貴所が推進してきた地域ブランド化に向けた様々なプロジェクト展開等について、継続的な支援を行ってまいりました。令和2年度に、貴所が実施主体となり、国補助事業の採択を受け推進した「made in 桐生のマスクプロジェクト」につきましても、市が事業費の一部を補助するなど、効果的な事業実施に向けた支援を行ったところでもあります。

マスクプロジェクトを更に発展させ、貴所が強力に推進している「桐生クラフトのブランド化」につきましても、ものづくりのまちとして発展してきた本市の魅力やブランドイメージ等を広く発信し、販路開拓等に取り組む市内企業に波及効果をもたらし得る取組として高い評価をしており、継続的な支援を行ってきたところでもあります。令和4年度においては、効果的な事業推進の一助になるよう、新たな補助事業を創設したところですが、今後も引き続き、貴所と密接な連携体制の下で、更なる推進を図ってまいりたいと考えております。

[回答担当] 産業経済部商工振興課産業立地戦略担当